

ここから始まる

COMMUNICATION MAGAZINE.

GET HEART

ゲットハート



2002.9



特集「日野川周辺河川敷のスポーツ」

川に親しむ

「よなご環境学習推進フォーラム」代表

おおた とみお
太田 富雄 さん（米子市皆生）



太田 富雄さん

米子市では毎年、環境をテーマとしたさまざまな活動を通じて、子どもたちに自然環境の大切さを学んでもらおうと、市内の小学生を対象とした『こども環境探検プログラム』という事業を実施している。これは「エコDEまんぷく」「ウォーターワールド in よなご」「それ行け中海探検隊」「メダカみつけ隊」「YONAGOジャングル探検」といった5つのイベントに各10人の子どもたちが参加して、それぞれに1年間の探検・研究成果をまとめあげていくもの。17人の市民ボランティアで組織する「よなご環境学習推進フォーラム」は、このイベントの運営役をつとめ、子どもたちと自然環境とのふれあいを支えている。代表の太田さんは、この中で日野川の水のきれいさや川の中の生き物を観察していく「ウォーターワールド in よなご」のサポーターもつとめる。

このイベントでは、1年の間に日南町三栄（上流）、江府町白水新水公園（中流）、日野川八幡橋付近（下流）の三箇所それぞれに生息する生き物を観察していく。「子どもたちは、川に入ったらすぐに石をひっくりかえしては水生生物を見つけ、びっくりしてはしゃいでいますよ」という太田さん。カワゲラやヒラタカゲロウ、ヘビトンボ、ヒラタドROMシなどが分かるそうだ。



水生生物調査をする子供たち

「**最**初のころ、子どもたちは川に入ることそのものが楽しいんです。それが一年間のうちにだんだんと関心が自然や環境の大切さへの方へと向いていきます。その成長ぶりにはびっくりします。日野川は、自然環境のことを学ぶには絶好の場所ですよ」

転勤で都会地から引っ越してきて初めてこのイベントに参加した小学生の父親から、「米子にきて本当に良かった。子どもがすばらしい自然と出会い、環境について強い関心をもったことに感謝しています」という、お礼状が届いたこともあったそうだ。

自然が豊富と言われている鳥取県西部でも、普段の生活の中ではなかなか環境の大切さを実感できない時代になっている。「身近なところから、環境学習は始まります。子どもたちには調査を通じて、理屈ではなく体と肌で自然環境の大切さを感じてもらいたい。自分で知りたいと思わなければ自然のことはわからないということ、この活動の中で子どもたちには体験して身につけてほしいですね」

日野川の自然が子どもたちの心を育てていくのだろう。「よなご環境学習推進フォーラム」は、平成11年にスタートしてから今年で発足3年目になる。米子市の『こども環境探検プログラム』での活動の成果を子どもたちが自分たちの手でまとめた報告壁新聞は、5年連続で環境省主催の全国フェスティバルで発表されている。

「子どもたちには、調査の後で家に帰ってから、家族に川の魅力や環境の大切さについて話をしてもらいたいですね。学校で、友達にも話をしてほしい。1人の感動や関心が、5人、10人と広がっていってくれば」と太田さんは抱負を語っている。



平成14年夏日野川の水生生物調査体験教室

日野川今昔
故きを温ねて

出雲街道 ③

出雲街道をゆく

二部宿

二部宿は、上方街道（出雲街道）の重要な宿駅で、新出雲街道、法勝寺往来も必ず通過することになっており、日野川上流部の黒坂方面への道もここから分かれる。日野郡交通の要衝の地であった。

足羽将監の居城跡と伝えられる二部城跡もある。中世以降の歴史を持ち、安政5年（1858年）には口（くち）日野郡役所も置かれ出雲街道の宿場として栄えた。松江藩が参勤交代をするときの本陣は旧家の本家足羽家が勤めた。二部宿中央に本陣跡がある。



出雲街道絵図（天保年間 1830～1844）に描かれた二部宿周辺



近江屋の道標

近江屋の道標

二部の町外れに、嘉永2年（1849年）に大阪道頓堀日本橋詰の今でいう、旅行者者近江屋市次郎の建設した道標がある。「左 大さか道」と刻まれている。



雲州松平侯本陣跡

秋の「味」

「自然薯」

自然薯は日本中の山に自生する山菜で、日野川流域でも岸本町や溝口町等の山間部の特産品です。年月を掛けて山の栄養分を吸収して成長し、秋には収穫期を迎えますが、収穫できるまでの大きさに育つには、最低でも3年はかかるそうです。栽培が難しく栽培量も少ないことから、今では1kg数千円もする貴重品です。長芋ともよく似ていますが、全く違う種類の物。味と香り、栄養は雲泥の差があります。

実はこの自然薯、米よりも早く日本人の食料になったとも言われ、古くから結核、やけど、百日ぜき、肺炎、しもやけ、糖尿病、食欲増進などに効果がある栄養食・強壮食として親しまれてきた歴史があります。その実力は「山菜」と呼ばれ漢方薬としても珍重されているほどです。この自然薯と100%そば粉を組み合わせようったなめらかな食感のそばが楽しめる岸本町の「伯耆の国懐集館 矢田貝邸」が、最近人気を集めています。



取材協力
伯耆の国懐集館 矢田貝邸
西伯郡岸本町上細見486
電話 0859-68-3008 (第2木曜日定休)



山かけそば定食

特に自然薯のとろろがかかった「山かけそば」が人気。オフシーズンには他地域の栽培物を使うこともあるそうですが、岸本町や溝口町の農家の方が収穫された地元産の自然薯にはとても粘りがあり、食感もしっかりしているのが特徴。毎日のそばを打つときもかなりの力を込めているのだとか。出来上がったそばは、舌ざわりがなめらかなのが特徴。

館長の岡田英男さんの話では、「自然薯の入ったそばは、当地でも珍しいと思います。特に地元の高齢者の方からはなめらかな食感の良さと薄口の味がとても好評で、だしをすべて飲みほされるほど満足していただいています。地元の方が持って来られる自然薯がまた格別で、広島、山口など遠方の観光客の方にも好評です」とのこと。これからの収穫シーズンに向けて、そば以外にも自然薯を使ったメニューを少しずつ増やし、日野川水系で採れたものを内外のお客様に提供していく予定だそうです。



第5回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 「豊かな流れ」川嶋 六三郎さん
日野川中流(日野川)

水の中のオッチング

- 表紙写真 「豊かな流れ」 -

県内屈指の水量を誇る日野川。叩きつけるように白い水飛沫をあげ、流れていく中流での姿は荒々しい力強さとともに清々しさを感じさせてくれる。水と戯れる鳥たちはどこか楽しげで、私たちの心をホッと和ませてくれる。常に私たちの心に豊かさを与えてくれる川の偉大さ。次の世代以降に語り伝えていきたい。

日野川流域 ものいり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・11

樋門(ひもん)

みなさんが、川の周りを歩いているとき下の写真のようなコンクリートで作られた施設を見たことはありませんか。この施設をよく見ると表札のようなもの(銘板)がついていて、樋門(樋管)と書いてあります。今回は、この樋門について紹介します。

一般的に川には洪水の時に川に水が氾濫しないように堤防が作られています。しかし、農業などのために川の水を取る所、あるいは支川や水路が合流する所があり、そこには堤防を作ることができません。そのため、この堤防の無いところが弱点となつて、川が氾濫する危険があります。この川の弱点をなくすために樋門が作られます。

この樋門は周辺の堤防と一体となつた構造で作られ、鉄で出来たゲートが付いています。このゲートを閉めることで洪水の時に水位の上つた本川(本流)から堤内地に水が逆流し、宅地、水田などが浸水しないようにします。樋門は二種類あつて、上で述べたように一つは川の水(農業用水など)を堤内地側に取り入れることを目的としたもの(取水樋門)、もう一つは堤内地の水を川に流すことを目的としたもの(排水樋門)があります。どちらの樋門も水を管理する上で重要な働きを持っています。これらの樋門にはそれぞれ操作・管理をしていただいている操作員さんがいて、洪水時などにゲートを操作し、みなさんの生活を守っています。最近では、操作員さんの負担を減らすため、また安全性を高めるために、電動化された樋門や、離れたところ(工事事務所)から操作できる樋門もあります。また、水位が上がると自動にゲートが閉まる珍しい樋門も開発されました。

日野川工事事務所の管理区間には約60の樋門があります。一番大きな樋門は大人の背丈より高い2.8mの水貫川樋門(米子市皆生)です。一度、堤防を走りながらも樋門を見てもみませんか？

(注1)川の内外をいう場合、水の流れている川の中を「堤外地」、宅地などがあり私たちが生活している川の外を「堤内地」と呼んでいます。





イベントあんない INFORMATION



江府町

「チロルの里健康ウォークラリー」

平成 14 年 10 月 14 日(月) 体育の日

問い合わせ先.....江府町教育委員会

TEL 0859 - 75 - 2223

国民文化祭「水の文化フェスティバル」

平成 14 年 10 月 26 日(土) ~

平成 14 年 11 月 4 日(月)

概要.....“水の音楽祭”11月2日(土)江府町総合体育館
スペシャルゲスト 岩崎 宏美

“水を考えるシンポジウム”

11月3日(日)江府町総合体育館

その他にも期間中、色々なイベントがあります。

問い合わせ先.....第17回国民文化祭江府町実行委員会

TEL 0859 - 75 - 3211

日野町

滝山公園紅葉マツタケまつり

平成 14 年 10 月 13 日(日)

問い合わせ先.....日野町役場企画振興課

TEL 0859 - 72 - 0332

生きいき「ひの」ふれあい祭り

平成 14 年 10 月 26 日(土) ~

平成 14 年 10 月 27 日(日)

問い合わせ先.....日野町役場企画振興課

TEL 0859 - 72 - 0332

会見町

第 14 回

全国柿の種吹きとばし大会

平成 14 年 11 月 23 日(土)

概要.....会見町特産の富有柿を食べて出てきた種を吹
きとばして距離を競います。優勝者にはハワイ
旅行をプレゼント!

参加費.....無料

問い合わせ先.....会見町まつり実行委員会

TEL 0859 - 64 - 2211

川・ふれあいホール コーナー

菅沢ダムの資料展示室「川・ふれあい
ホール」の展示内容を紹介します。
平成14年9月1日(日)~
平成14年9月30日(月)

「森と湖に親しむ旬間写真展」(予定)
平成14年10月1日(火)~
平成14年10月31日(木)

「愛護月間写真展」(予定)

一般の方の作品展にもご利用頂けます。
詳しいことは編集事務局までお問い合わせ下
さい。

編集後記

私と川との関わりは、小学校の頃に遡ります。

夏休みの前に必ず大雨が降り、毎年の如く床下浸水になりました。1週間近く、水上生活をしたこともありました。私たち子供にとっては学校が臨時休校になり、うれしかったことを覚えています。

また、夏休みに入ると、毎日のように川に水浴びに出かけました。当時は学校にプールがなかったので、子供にとって川は自然のプールでした。

川は、機嫌の良い時もあれば、悪い時もありますが、私たちにとって身近な存在であることには間違いありません。これからも上手に付き合っていかなければならないと思います。

これから、台風シーズンです。備えあれば憂いなしとよく言いますが、いざというときに慌てないように心の準備だけは怠らないようにしたいものです。

原 博人

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART 第20号

発行

・日野川への想いを語る会

編集事務局

・国土交通省日野川工事事務所

〒689-3537

米子市古豊千678

TEL (0859)27 - 5484

「川」について、
意見、質問、要望、
何でもええけ、便
りごしない。待つ
ちようけんね。

